

# 平成23年度 落葉果樹関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成23年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成24年2月1日(水)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者39名、委託関係者13名ほか、計63名の参集を得て、除草剤1薬剤(3点)、生

育調節剤9薬剤(69点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

## 平成23年度 落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

**A. 除草剤**

注)アダグ-ラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および含有率(%) [委託者]	作物名	試験の種類 新・継の別	試験担当場所 ○は試験中など(数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. SB-211 フロアブル グリホサートイソプロピルアミン塩:20% カルフェントラチンイソプロピルアミン塩:2%  [エス・デー・イー・エス・アイ・ワイ・ツツ]	ナシ	適用性 継続	栃木(幸水) 埼玉 園研 (幸水) 岐阜(幸水)  (3)	ねらい 一年生、多年生、スギナ/茎葉処理 対象 一年生(稲) 全般 一年生(麦) 全般 多年生(稲) 全般 多年生(麦) 全般 その他 スギナ 設計 薬量 (水量L) /10a 茎葉処理 雑草生育期(30cm以下)、 春期および夏期 500, 750, 1000mL <100L 対) ハシダ 500mL <100L	・展着剤は不要。 ・樹に掛からない様に散布する。 ・処理後30日程度で調査を行う。 ・効果の発現を確認するため処理後5日程度で、さらに、抑草期間を確認するため60日後まで調査を行う。	継	継) ・効果、葉害の確認

**B. 生育調節剤**

注)アダグ-ラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および含有率(%) [委託者]	作物名	試験の種類 新・継の別	試験担当場所 ○は試験中など(数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AF-1 くん蒸 1-アザラジカアロピレン: 3.3%  [ロム・アンド・ハース・ジャパン]	柿(ワルツ) (さめきゴールド)	適用性 新規	<香川 府中>  (1)	ねらい 収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 設計 薬量 (水量L) /10a 密閉容器内くん蒸処理 収穫後2日以内 1000ppb (製品68mg/m <sup>3</sup> )	・収穫用コッけまたは出荷用箱に入れた果実をハットレット(容積3.5m <sup>3</sup> )に入れ、本剤238mgに100mL程度の水を加え有効成分の発生を促す。 ・直ちにハットレットを密閉し24時間密閉状態を保持する。 ・処理終了後に開封し、4~5℃にて保存する。 ・処理直後、60, 90, 120日後に、無処理区との差がみられるまで果実硬度、軟化率等を測定する。	—	(試験中)
	柿(ワルツ) (アイワード)	適用性 新規	<愛媛 果樹研> <福岡>  (2)	ねらい 収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 設計 薬量 (水量L) /10a 密閉容器内くん蒸処理 収穫後7日以内 1000ppb (製品68mg/m <sup>3</sup> )	・収穫用コッけまたは出荷用箱に入れた果実をハットレット(容積3.5m <sup>3</sup> )に入れ、本剤238mgに100mL程度の水を加え有効成分の発生を促す。 ・直ちにハットレットを密閉し24時間密閉状態を保持する。 ・処理終了後に開封し、4~5℃にて保存する。 ・処理直後、60, 90, 120日後に果実硬度、軟化率等を測定する。 ・収穫後7日以内の果実を試験に用いる。	—	(試験中)

B. 生育調節剤

注)アウターラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
2. AF-3 くん蒸成型 1-メチルピロリドン 0.628% [7.85mg a. i. / (l. 25g)] [D-A-7ント・ハス・ジ ハ]	ナ (あき づき)	適用性 継続	栃木 佐賀 果樹試 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 密閉容器内くん蒸処理 収穫当日(24時間以内) 1000ppb(1錠(1.25g)/3.5m <sup>3</sup> )	・収穫用コフキまたは出荷用箱に入れた果実をハ'レット(容積3.5m <sup>3</sup> )に入れ、ス-17アを1錠入れる。 ・直ちに容器を密閉し12時間以上密閉状態を保持する(この条件で処理濃度は1000ppbとなる)。処理終了後に開封し、果実を箱またはコフキに入れたまま室温に保存する。 ・処理2,3,4週間後に果実硬度、食味等を測定する。 ・収穫後24時間以内の果実を試験に用いる。	実・継 実) [日本ナ(幸水、豊水): 収穫果実の貯蔵性向上] ・収穫直後(24時間以内) ・1000ppb(1錠(1.25g)/3.5m <sup>3</sup> ) ・専用の溶液(ト)に入れて発生する気体に密閉条件で12時間暴露 ・効果の確認された品種: 幸水、豊水、あきづき、新高、二十世紀 継) ・効果、葉香の確認 (あきづき、新高、二十世紀)	
		ナ (新高)	適用性 継続	長野 南信 佐賀 果樹試 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 密閉容器内くん蒸処理 収穫当日(24時間以内) 1000ppb(1錠(1.25g)/3.5m <sup>3</sup> )		
	ナ (二十 世紀)	適用性 継続	長野 南信 鳥取 園試 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 密閉容器内くん蒸処理 収穫当日(24時間以内) 1000ppb(1錠(1.25g)/3.5m <sup>3</sup> )	・収穫用コフキまたは出荷用箱に入れた果実をハ'レット(容積3.5m <sup>3</sup> )に入れ、ス-17アを1錠入れる。 ・直ちに容器を密閉し12時間以上密閉状態を保持する(この条件で処理濃度は1000ppbとなる)。処理終了後に開封し、果実を箱またはコフキに入れたまま室温に保存する。 ・処理2,3,4週間後に果実硬度、食味等を測定する。 ・収穫後24時間以内の果実を試験に用いる。		
	ナ (西条)	適用性 継続	鳥取 河原 (1)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 密閉容器内くん蒸処理 収穫当日(24時間以内) 500ppb(1錠(1.25g)/7m <sup>3</sup> )	・収穫用コフキまたは出荷用箱に入れた果実をハ'レット(容積7m <sup>3</sup> )に入れ、ス-17アを1錠入れる。 ・直ちに容器を密閉し24時間以上密閉状態を保持する(この条件で処理濃度は500ppbとなる)。処理終了後に開封し、果実を箱またはコフキに入れたまま室温に保存する。 ・処理1,2,3,4,5週間後に果実硬度、軟化率等を測定する。 ・収穫後24時間以内の果実を試験に用いる。		
ナ (早秋)	適用性 継続	岐阜 (1)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 密閉容器内くん蒸処理 収穫当日(24時間以内) 500ppb(1錠(1.25g)/7m <sup>3</sup> )	・収穫用コフキまたは出荷用箱に入れた果実をハ'レット(容積7m <sup>3</sup> )に入れ、ス-17アを1錠入れる。 ・直ちに容器を密閉し24時間以上密閉状態を保持する(この条件で処理濃度は500ppbとなる)。処理終了後に開封し、果実を箱またはコフキに入れたまま室温に保存する。 ・処理1,2,3,4,5週間後に果実硬度、軟化率等を測定する。 ・収穫後24時間以内の果実を試験に用いる。			

## B. 生育調節剤

注) A7ゲ-1は新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) 【委託者】	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判定	判定内容	
2. AF-3 くん蒸成型 つづき	柿 (中谷 早生)	適用性 継続	和歌山かきもも研	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a	収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 密閉容器内くん蒸処理 収穫当日 (24時間以内) 500ppb (1錠 (1.25g) /7m <sup>2</sup> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫用コジけまたは出荷用箱に入れた果実をパレット(容積7m<sup>3</sup>)に入れ、A7-177を1錠入れる。</li> <li>・直ちに容器を密閉し24時間以上密閉状態を保持する(この条件で処理濃度は500ppbとなる)。処理終了後に開封し、果実を箱またはコジけに入れたまま室温に保存する。</li> <li>・処理1, 2, 3, 4, 5週間後に果実硬度、軟化率等を測定する。</li> <li>・収穫後24時間以内の果実を試験に用いる。</li> </ul>	-	
			新潟 園研 和歌山 かきもも研	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a	収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 密閉容器内くん蒸処理 収穫当日 (24時間以内) 500ppb (1錠 (1.25g) /7m <sup>2</sup> )			
	柿 (平核 無)	適用性 継続	山形 庄内 新潟 園研	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a	収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上 密閉容器内くん蒸処理 収穫当日 (24時間以内) 500ppb (1錠 (1.25g) /7m <sup>2</sup> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫用コジけまたは出荷用箱に入れた果実をパレット(容積7m<sup>3</sup>)に入れ、A7-177を1錠入れる。</li> <li>・直ちに容器を密閉し24時間以上密閉状態を保持する(この条件で処理濃度は500ppbとなる)。処理終了後に開封し、果実を箱またはコジけに入れたまま室温に保存する。</li> <li>・処理1, 2, 3, 4, 5週間後に果実硬度、軟化率等を測定する。</li> <li>・収穫後24時間以内の果実を試験に用いる。</li> </ul>		
3. AKD-8152 水溶性 1-ナフタレン酢酸ナトリウム: 4.4%  【アグロネッショ】	サトウ	作用性 新規	青森りんご研 県南(佐藤錦) 山形園試 (佐藤錦)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a	着果安定 立木全面散布あるいは枝別散布 ・満開7~14日後/1回 1000倍 <300~600L/10a> 2000倍 <300~600L/10a> 4000倍 <300~600L/10a> ・満開直後及びその4週間後 4000倍×2回 <300~600L/10a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無処理と比較しての結実率についての調査を行う</li> </ul>	-	(作用性)
4. CX-10 液 ジメチル:10%  【日本カバイン工業】	カ	適用性 新規 (自主)	<静岡> <福井> <鹿児島>	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a	休眠打破による発芽促進 立木全面散布 休眠期(11月を目安) 20倍希釈<十分量>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処理時期は11月を目安とし時期を2区設定する。</li> <li>・散布時期、濃度による効果の差、発芽時期・展葉時期・発芽数(発芽率)・最大発芽率までの到達期間、着果開始期、結果開始時期・着果率・収穫時期の調査を行う。</li> <li>・枝単位の処理可、液が滴り落ちる程度十分散布する。(実際の散布液量を記録する)</li> </ul>	-	(試験中)

B. 生育調節剤

注) アンダーラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
5. KT-30S 液 ホウリン酸・フェニトロ：0.1%  [協和発酵バイオ]	日本枅	作用性 継続	栃木(幸水) 埼玉 園研 (彩玉) 岐阜(松島)  (3)	ねらい 切り口及び傷口の癒合促進 剪定時及び病部削り取り直後 ・切口に塗布後木工用バンド塗布 20ppm <十分量> ・切口に塗布後有機銅塗布剤塗布 20ppm <十分量> ・切口に塗布後フタル酸エステル塗布 20ppm <十分量>  対) 木工用バンド 十分量 対) 有機銅塗布剤 十分量 対) フタル酸エステル剤	・癒合割合の調査	-	(作用性)
6. NB-27 液 ピコチノール：44.0%  [日本曹達]	ブドウ (ヒメオネ)	適用性 新規	山梨果試 長野果試 岡山  (3)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 副梢を含む新梢伸長抑制 立ち木全面又は枝別散布 満開10日後 500倍 <150L> 満開20日後 500倍 <150L> 満開40日後 500倍 <150L>	・処理区が取れない 場合は満開10日処 理区を削る。 ・短梢栽培で試験を 行う。 ・果実品質の確認を 行う。	実・継 (従来 どお り)	実) [ブドウ(ヒメオネ)：選伸び防 止] ・満開15~35日後 ・500倍<150L/10a> ・立木全面散布 継) ・満開10日および40日後処理で の効果、葉害の確認
	ブドウ (巨峰)	適用性 新規 (自主)	山梨果試  (1)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 副梢を含む新梢伸長抑制(自主) 立ち木全面又は枝別散布 満開10日後 500倍 <150L> 満開20日後 500倍 <150L> 満開40日後 500倍 <150L>	・処理区が取れない 場合は満開10日処 理区を削る。 ・短梢栽培で試験を 行う。 ・果実品質の確認を 行う。	実・継 (従来 どお り)	実) [ブドウ(巨峰)：選伸び防止] ・満開30~35日後 ・500倍<150L/10a> ・立木全面散布 継) ・時期、樹勢、葉害の確認 ・満開10日および40日後処理で の効果、葉害の確認
	ブドウ (ナガノ ハーフ 房)	適用性 新規 (自主)	長野果試(場内) 長野果試 (中野現地)  (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 副梢を含む新梢伸長抑制(自主) 立ち木全面又は枝別散布 満開10日後 500倍 <150L> 満開20日後 500倍 <150L> 満開40日後 500倍 <150L>	・処理区が取れない 場合は満開10日処 理区を削る。 ・短梢栽培で試験を 行う。 ・果実品質の確認を 行う。	継	継) ・効果、葉害の確認
7. ジベレリン 水溶 ジベレリン：3.1%  [協和発酵バイオ]	ブドウ (ハニ ナス(有 核栽培))	適用性 継続 (自主)	宮崎  (1)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 果房浸漬 ・満開10日後 25ppm <十分量> ・満開20日後 25ppm <十分量> 対) 無処理	・着粒密度、着粒数、 房重、一粒重、糖度、 酸度を調査する	実・継	実) [ブドウ(巨峰、ハニナス、有核栽培)：果粒肥 大促進] ・結実確認後、 満開10~20日後 1回 ・25ppm ・果房浸漬  継) ・12.5ppmでの効果、葉害の確 認 ・満開10日後処理での無核果実 の混入について ・年次変動の確認(ハニナス)
	ブドウ (BKシ ドリス)	適用性 新規 (自主)	九州大学  (1)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 着粒安定、果粒肥大促進(自主) 花房浸漬 満開3日後 100ppm <十分量> 果房浸漬 満開6日後 100ppm <十分量> 参) ジベレリン水溶剤 花房浸漬 開花初期 100ppm	・房長、軸長、着粒密 度、着粒数、房重、一 粒重、糖度、酸度、着 色	継	継) ・効果、葉害の確認
	スイカ(貴 州)	適用性 継続	山梨果試 島根 島根(自主) 福岡 佐賀(自主) 熊本 果樹研  (6)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 着果安定 果実散布 ・満開期→満開20~30日後 ①100ppm→100ppm <十分量> ②200ppm→200ppm <十分量>  ・満開20~30日後→満開50~60日後 ③100ppm→100ppm <十分量> ④200ppm→200ppm <十分量>  ・満開20~30日後 ⑤100ppm <十分量> ⑥200ppm <十分量> 対) 人工授粉	・全区で受粉(横行)を 行う。 ・調査項目：予備摘果前 及び最終結実確認後の 着果率(着果数/処理花 数)、着色、果実重、果肉 硬度、果径、糖度、酸度、 種子の有無、花芽形成、 新梢伸長への影響。 ・満開20~30日後に最 終着果量の2倍程度に 予備摘果する。 ・③、④区については2 回目処理前に摘果す る。 ・満開50~60日に仕上 げ摘果(最終着果量の 1.2倍)を行う。	継	継) ・効果、葉害の確認

## B. 生育調節剤

注) アダージンは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判定	判定内容
7. ジベレリン 水溶 つづき	うめ	適用性 新規 (自主)	<群馬> <鹿兒島> (2)	ねらい 開花遅延 枝別散布 10月上旬頃の落葉期前 25ppm <十分量> 50ppm <十分量> 対) 無処理	調査項目: ・落葉率、結実率、収量 ・開花期の拡大として 結実率、果実品質 ・開花期の同調として 花粉粘性、健全花率 ・無処理と比較した開 花遅延日数。	—	(試験中)
8. ジベレリン 塗布 ジベレリン:2.7%  [協和発酵ハイ]	ナ (苗木)	適用性 新規 (自主)	岐阜(幸水) (1)	ねらい 設計 葉量 <水量L> /10a 新梢伸長促進(自主) 新梢部塗布 成長期 100mg/新梢	・新梢長、副梢長を測 定。	継	継) ・効果、葉害の確認
	モ (苗木)	適用性 新規 (自主)	群馬 (日川白鳳他) 神奈川 (なつおとめ) 長野県試 (なつっこ) 広島 (ひめこなつ) (4)	ねらい 設計 葉量 <水量L> /10a 新梢伸長促進(自主) 新梢部塗布 成長期 100mg/新梢	・新梢長、副梢長を測 定。可能であれば夏 場(6~7月)に一度 調査を実施。	継	継) ・効果、葉害の確認
9. ジベレリン/KT-30S 水溶/液 ジベレリン:3.1% トリコルフェニロン:0.1%  [日本ジベレリン研究会]	アトリ (巨峰 系4倍 体; 巨峰)	適用性 継続	石川砂丘地 山梨果試 愛知 (3)	ねらい 設計 葉量 <水量L> /10a 無種子化、果房伸長促進 花房浸漬→果房浸漬 ・満開20日前→満開10~14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> ・満開20日前→満開3~5日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm+KT10ppm <十分量> ・満開14日前→満開10~14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> ・満開14日前→満開3~5日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm+KT10ppm <十分量> 対) 慣行	調査項目: ・房長、軸長、無核化 率、着粒密度、着粒 数、房重、一粒重、糖 度、酸度、着色。 ・ストロブトマイシン剤は使 用しない。	継	継) ・効果、葉害の確認
	アトリ (巨峰 系4倍 体; ピオネ)	適用性 継続	山梨果試 長野果試 岡山 (3)	ねらい 設計 葉量 <水量L> /10a 無種子化、果房伸長促進 花房浸漬→果房浸漬 ・満開20日前→満開10~14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> ・満開20日前→満開3~5日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm+KT10ppm <十分量> ・満開14日前→満開10~14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> ・満開14日前→満開3~5日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm+KT10ppm <十分量> 対) 慣行	調査項目: ・房長、軸長、無核化 率、着粒密度、着粒 数、房重、一粒重、糖 度、酸度、着色。 ・ストロブトマイシン剤は使 用しない。		
	アトリ (巨峰 系4倍 体; オロラブ ラック)	参考 (自主)	岡山 (1)	ねらい 設計 葉量 <水量L> /10a 無種子化、果房伸長促進 花房浸漬→果房浸漬 ・満開20日前→満開10~14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> ・満開20日前→満開3~5日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm+KT10ppm <十分量> ・満開14日前→満開10~14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> ・満開14日前→満開3~5日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm+KT10ppm <十分量> 対) 慣行	調査項目: ・房長、軸長、無核化 率、着粒密度、着粒 数、房重、一粒重、糖 度、酸度、着色。 ・ストロブトマイシン剤は使 用しない。		
	アトリ (ゲニール ジュ)	適用性 新規	山形園試 石川 砂丘地 山梨果試 (3)	ねらい 設計 葉量 <水量L> /10a 無種子化、果房伸長促進 花房浸漬→果房浸漬 ・満開14日前→満開3~5日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm+KT10ppm <十分量> ・満開20日前→満開3~5日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm+KT10ppm <十分量> 対) 慣行	調査項目: ・房長、軸長、無核化 率、着粒密度、着粒 数、房重、一粒重、糖 度、酸度、着色。 ・ストロブトマイシン剤は使 用しない。	継	継) ・効果、葉害の確認

B. 生育調節剤

注) アンダーラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判定	判定内容
9. シベリン/KT-30S 水溶/液 つづき	フトウ (欧州 系2倍 体; リンカ ス)	適用性 継続 (自主)	果樹研 石川砂丘地 山梨果試 長野果試 (4)	ねらい 設計 薬量 <水量L >/10a 花房浸漬 満開3~5日後(落花期) GA25ppm+KT10ppm <十分量> 対) 各果の慣行処理に準ずる	調査項目: ・無核化率、着粒密 度、着粒数、房重、一 粒重、糖度、酸度	実・継 実) ・効果、葉害の確認 (黄華、リンカス、リカス)	[フトウ(欧州系2倍体; シン スカット、ニードル、瀬戸シ ン)] ; 無種子化、果粒肥大 促進] ・満開3~5日後(落花期) ・25ppm+KT-30S (林カス、 10ppm ・花房浸漬
	フトウ (欧州 系2倍 体; ニード ル)	適用性 継続 (自主)	果樹研 石川砂丘地 山梨果試 長野果試 (4)	ねらい 設計 薬量 <水量L >/10a 花房浸漬 満開3~5日後(落花期) GA25ppm+KT10ppm <十分量> 対) 各果の慣行処理に準ずる	調査項目: ・無核化率、着粒密 度、着粒数、房重、一 粒重、糖度、酸度		
	フトウ (欧州 系2倍 体; 瀬戸シ ン)	適用性 継続 (自主)	山梨果試 岡山 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量L >/10a 花房浸漬 満開3~5日後(落花期) GA25ppm+KT10ppm <十分量> 対) 各果の慣行処理に準ずる	調査項目: ・無核化率、着粒密 度、着粒数、房重、一 粒重、糖度、酸度		
	フトウ (欧州 系2倍 体; リカ ス)	適用性 継続 (自主)	石川砂丘地 (1)	ねらい 設計 薬量 <水量L >/10a 花房浸漬 満開3~5日後(落花期) GA25ppm+KT10ppm <十分量> 対) 各果の慣行処理に準ずる	調査項目: ・無核化率、着粒密 度、着粒数、房重、一 粒重、糖度、酸度		